

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3171400694		
法人名	社会福祉法人みのり福祉会		
事業所名	北栄みのりグループホーム		
所在地	鳥取県東伯郡北栄町東園219-1		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成29年12月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・養蚕の取り組みを始めて6年目になり、ご利用者様 ご家族様また地域の方にも好評で北栄みのりの色であり、毎年の楽しみの一つになっている。  
 ・平成29年度は、ご利用者様の生活歴を良く知った上で身体的・精神的に穏やかに過ごしていただく事を目的として「お経のおかげで 今日もイキイキ!!」をテーマに事例研究に取り組み、成果を法人内の部会で報告した。  
 ・そうめん流しや収穫祭にご利用者様とご家族様、地域の方や近隣施設の方々をお招きして交流を図っている。  
 ・平成29年度は、喀痰吸引の研修に参加し、看取りを含め重度化に向かうグループホームのご利用者様のニーズに合わせた環境を整えたいと考えている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

大山を背景に田園風景に囲まれた自然豊かな立地にある北栄みのりグループホームは、町主催の地域ケア会議や地域ネットワーク会議、北栄町ネットワーク等を活かし、町と連携を図りながら事業所運営をされている。地域内での交流も活発に行われており、地域の方が野菜や養蚕の餌となる桑の葉を持ってこられるのに対し、事業所では地域の方や近隣施設の方々に施設行事に招待されるなど、日々、交流を深められている。また、利用者と地域の園児と共にひまわりを育て、1年を通して交流されている。法人内での接遇についての取り組みにも力を入れ、看取りを含めグループホーム利用者のニーズに合わせた手順書を作成されるなど、環境整備されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内の5グループホーム共通理念に加え、実態に即した独自の理念を掲げ、毎朝申し送りの際に復唱し全職員で意識づけ、ご利用者様の支援に生かせるように努力している。	毎週の申し送りの際に理念を全職員が唱和し、日々意識しながら実践につなげられている。法人内のグループホーム共通理念の他、平成28年には、地域密着型サービスを意識したグループホーム独自の理念を作成された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の5グループホーム共通理念に加え、実態に即した独自の理念を掲げ、毎朝申し送りの際に復唱し全職員で意識づけ、ご利用者様の支援に生かせるように努力している。	北栄町ネットワーク作り研修会の実行委員となり、講演会、合同運動会など地域の一員として相互の交流を深められている。また「北栄安心見守りネット」、町内会に加入されている。利用者と共に日常的に、散歩コースの清掃活動。蚕さんプロジェクトでは、餌となる桑の葉を地域の方が持って来られ、蚕の世話をされたり、四季折々には地域の人を招待され、オレンジカフェへと出かける機会を作られるなど地域とつながりながら暮らし続けられるよう努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーターキャラバン」の研修を受けた職員が、包括の職員さんと地域の小学校や高校に出かけて行き「認知症サポーター養成講座」を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、利用状況等を報告する中で提案や助言・情報をいただきケアの向上につなげている。 会議内容を職員全員に報告し取り組みについて話し合い、実践することによりサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催されている。事業所の報告、利用者の状況等を報告し、提案や助言、情報をもとに意見交換をされ、サービスの向上に活かされている。また、会議内容は職員全員に報告し、取り組みについての話し合いを持たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症ケア向上連絡会で同業者が集まり、運動会・事例検討会・勉強会を行っている。グループホーム協会が開催している「ネットワーク研修会」の実行委員であり他職種間で意見交換をしている。毎年外部のグループホームと相互研修を行い情報交換し、それぞれの良いところを取り入れながら質の向上を図っている。	日頃から町担当者とは相互に行き来され、事業所の実情を伝えたり、手続き等、利用者の心配事などの支援を受けられ、改善に向けての取り組みをされている。今年度は、小学生対象の「認知症サポートキャラバン」に町の担当者も協力をされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間帯以外は施錠せず、いつでも出入りできるようにしている。帰宅願望のあるご利用者は単独で外出されることを止めることをせず、一緒に歩く支援を行っている。また毎年 外部、内部研修で身体拘束について学び、職員全員で「身体拘束の禁止について」正しく理解し身体拘束をしない支援を実践している。	毎年、外部・内部研修で、「身体拘束の禁止について」全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組まれている。日中は玄関の施錠はされていない。帰宅願望のある利用者については一緒に同行され、見守りをされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は北栄町の「高齢者虐待防止連絡協議会」の委員を6年継続している。会議には欠かさず出席して町内の虐待の実態、また施設内で虐待が起きないように常に注意を払うとともに、職員同士声をかけ合える関係を築き意識づけを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ホーム内には1名、後見制度を利用されて11年目になられるご利用者様がおり、後見人様は運営推進会議にも参加して下さっている。当ホームに入居されたご利用者様に後見制度の必要性を感じ、包括支援センターに協力を依頼して利用につながったご利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に重要事項説明書と契約書の説明をして納得していただいた上で契約を結んでいる。改定当があった場合は、ご家族様ご利用者様に文書を配布し説明した上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートによりご意見を伺っている、いただいた意見や要望に誠意をもって回答し実行するように努めており、運営推進会議での報告と、全家庭に書面での回答を郵送している。面会の際に近況を伝えて要望が言える雰囲気になるように努めている。	家族アンケートを年1回行い、意見や要望を聞かれ運営に反映されている。アンケート結果については、全家族に書面で伝えられている。また、担当職員は、近況報告を毎月のおたよりと共に、郵送されたり、面会時にも、伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつでも希望、要望を言いやすい雰囲気になるように努めている。毎年年度末には職員面談により一人ひとりと話す機会を設けて、希望や要望を含めて話せる時間を設け、書面にして代表者にも伝えるようにしている。	施設長と管理者は、毎年年度末に個人面談をされ、日々の職員とのコミュニケーションを通じ意見を聞かれている。また、そこでの希望や要望を含め、書面にて代表者に報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年給与の見直しが行われており、一人ひとりに合わせた給与の支給が行われている。資格取得の際には、助成制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は度々ホームを訪れ職員の勤務状態を把握するように努めている。法人内の研修は外部から講師を招いたり、法人のアドバイザーを講師としてほぼ全職員に実施している。法人外部の研修は管理者が職員個々の能力に応じ受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア向上連絡会で同業者が集まり、運動会・事例検討会・勉強会を行っている。グループホーム協会が開催している「ネットワーク研修会」の実行委員であり他職種間で意見交換をしている。毎年外部のグループホームと相互研修を行い情報交換し、それぞれの良いところを取り入れながら質の向上を図っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から生活習慣・嗜好等を入念にアセスメントを行い、入居当初は特に関わりを多く持つようにして、ニーズを把握して信頼関係を深めるように努めている。また他の利用者との関わりを持てるように仲立ちをして、グループホームが過ごしやすい所となる様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には家族の想いも十分に聴くようにして、想いに添えるように努力している。面会時にもできるだけ安心していただけるような言葉で近況を伝えている。また必要に応じて電話連絡し家族の希望を聴き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の想いを最優先として、最善と思われる支援につなげるように努力している。自宅での生活が困難であり、入居を急いでおられる場合は隣接するデイサービスの宿泊サービスを利用していただきグループホーム入居につなげる場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様の身体・精神状態をしっかり把握し、生活する中で、調理・洗濯・掃除・食器洗い・畑仕事・手作業などの得意な事、持っておられる技術を発揮できるように配慮し、一緒に行うことにより良い関係を築くことができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者様・担当職員ができるだけ連絡を取る機会をもてるように努め、通院・馴染みの美容院・日中の帰宅など、ご家族様の負担にならないよう配慮しながら同行していただいている。職員はご家族様が気軽にホームに立ち寄り、行事にも参加しやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前調査や、本人と対話する中で知り得た情報を基に、墓参りや馴染みの場所を訪れたり、行きつけの美容院に出かけるなどしている。親族の方はもとより近所の方や友人の方を温かく迎え、訪問しやすい雰囲気づくりに努め関係の継続ができるようにしている。通院の機会に自宅に立ち寄るなどの支援をしている。	入居の際には、利用者家族、利用者からの聞き取りをされ、全職員が把握できるよう情報を共有されている。利用者の馴染みの場所を訪れたり、墓参り、美容院等に出かけられている。また近隣の方や友人、親族等が訪問されるなど、関係が途切れないよう支援され、通院の機会には、自宅に立ち寄るなどされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様が会話や手作業を一緒にできるようにテーブルやソファの位置に配慮したり、時には職員が仲立ちをしてご利用者様同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居されたご利用者様でも、退院される際には連絡をいただき他の事業所を含め円滑な介護サービスへの移行を心がけている。必要に応じていつでも相談に応じる旨を伝えており、当ホームへ再入居されたご利用者様も多くおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と共に過ごし談笑する中で、一人ひとりの話しに傾聴し思いをくみ取る様にしている。ご利用者様主体の支援ができるように努力している。可能な限り希望を叶える様に努めている。意思疎通が困難な場合でも、ご家族様と話し合ったり、日々の生活の中でご利用者様の表情や様子から思いをくみ取るようにしている。	一人ひとりの思いや意向を把握され、日々の会話や行動の中から利用者主体の支援となるよう努められている。また、意思疎通が困難な利用者については、「ひもときシート」を利用し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様やご家族様から生活歴を聞き取り職員全員で把握している。入居後も会話する中で知り得た生活歴等を記録し、日々の支援が充実したものになるように努めている。居室内には馴染みの使い慣れた物品を置いていただき、ご利用者様にとって落ち着ける環境になるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活リズムを把握し、ご本人様のペースで生活していただくようにしている。それぞれの趣味や特技を發揮できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、日課表に評価とモニタリングを記録し次の支援につなげている。本人様の心身の状態を見極め、ご家族様や主治医と連携を取りながら、必要に添った支援ができるようにプランに繋げ、介護者が統一した支援ができるように努めている。必要に応じて途中で介護計画の見直しを行い適切な支援を提供している。	毎月、日課表に生活歴・評価・モニタリングを記録し、利用者・家族・職員でカンファレンスを行い、必要に応じて主治医を交え介護計画を作成されている。6カ月に1度の定期的な見直しに加え医療的ケアが必要になった場合は、随時見直しをされ、現状に即した介護計画となるよう支援されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日課表を基に毎月のモニタリングに反映させ、次のプランにつなげている。水分・排泄・食事量・バイタル・日中の様子・受診記録・ケアプランの実施状況が一目でわかりやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や自宅への帰宅の付き添い、墓参り、買い物など本人様の希望に添えるような支援に心がけている。誕生日には「希望をか叶える日」として、あらかじめ会話の中でご本人様の希望を聴き、可能な限り叶えている。行きつけの病院への通院支援・入院中の支援、グループホーム内で看取りを行った際、通夜の為の場所を提供を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前、行きつけだった美容院や眼鏡店の方が必要な時に訪問して下さったり、毎月開催されるオレンジカフェ に出かけることにより、知人と会い話したり、同じ町内のグループホーム収穫祭に出かけて交流と収穫の喜びを味わっていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医への受診や、当事業所の協力病院による定期往診・臨時受診を受けて体調管理できるように支援している。必要に応じて訪問看護を利用している。その都度ご家族様への受診相談と報告、また毎月おたよりで受診状況を報告している。	本人および家族等の希望するかかりつけ医、協力病院の受診支援が定期的に行われている。併設のデイサービスの看護師と連携し、医療処置や相談等行われている。受診結果は毎月のおたよりや電話にて報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師と連絡を密にしており、小さな変化にも迅速に対応できるようにしている。訪問看護とも契約し必要に応じて点滴等の処置を受け、相談もしている。その都度医療機関を受診・往診で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は洗濯、買い物などの支援を行いご家族様の負担軽減や安心感を得られるようにしている。病院との連携を密にとり頻りに面会に訪れ精神的な不安を軽くする為に出来るだけ早期に退院し、通院治療が可能になる様に医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明書を用いて事業所側の終末期についての対応を説明しており、その都度ご家族様の意向を伺いながら、出来るだけ想いに添った支援ができるように努めている。看取りの段階と判断される場合は、ドクター・ナース・ケアマネ・担当者・リーダーでケア会議の場を設けて記録に留め介護にあたる職員全員で内容を把握している。	契約時、利用者ごとの看取りについての説明書を作成されている。職員の看取りの研修、エンゼルケア研修が行われており、終末期に向けて、医師、看護師、家族等で方針を共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員が消防署の救命救急、AEDの講習を受けている。緊急時の対応方法として全職員が学んでおり、事故発生時に備えている。年に2回の通報訓練・避難訓練と年1回夜間訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害と避難訓練を実際にご利用者様と一緒に避難を実践した。ご家族様や地域の方にも連絡網に加わっていただき、通報訓練にも参加していただいて災害時に備えている。火災時の避難誘導の協力体制について、同じ町内にあるグループホームの理事長、公民館長さん、民生委員さん、当グループホームのリーダー、管理者が話し合いを行った。協力協定を取り交わす予定。居室前にはご利用者様の身体状態がわかるように表示をしている。	年間計画に沿って、火災訓練、水害訓練が実施されている。夜間想定での訓練を実施。地域住民の参加の際の意見を元に、利用者ごとの部屋の入口に、利用者の支援方法を表したカードを作成し掲示されていた。同町内のグループホームと「火災時における避難誘導の協力協定書」を結ばれる予定である。備蓄はある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する事、入浴時など特にプライバシー・尊厳を尊重した声掛けや対応をするように注意している。法人で作成した「接遇マニュアル」を職員会で全職員読み合わせを行い、接遇に対する意識の向上を図っている。職員間でもご利用者様の生活歴を理解したうえで一人ひとりに合った声掛けや対応に配慮している。	法人独自の「接遇マニュアル」を作成し、年1回職員マニュアル研修を実施されている。来客対応、職員マナー等について細かく指導が行き届いており、利用者に対しての言葉遣いや態度も一人ひとりに合った対応を心掛けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の希望や外出、更衣時の衣服選びや食べ物の好みなど小さなことでも希望を尋ねることにより、押しつけず自己決定できるように努めている。また 毎朝、飲み物の希望を尋ねて嗜好に合った飲み物を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を把握し、一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように配慮しながら声掛けしている。食事や入浴の頻度や時間も一人ひとりの希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時に本人様が気に入って購入されていた衣服を持参していただいております、その中から季節や行事、その日にあわせて出来るだけご本人様の意向で決めています。自己決定できないご利用者様については職員が一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせてメニューに嫌いなものがある時は別メニュー作り提供している。行事の時は、カラフルなお弁当メニューの中から食べたいものを選んでいただいたり、オードブルを用意してご自分で選んで食べる楽しみを提供している。	食事は利用者の好みや希望を把握し、職員が献立を考え、それぞれに合った内容で提供されている。食材の皮むきや盛り付け、後片付け等、利用者の出来る範囲で手伝ってもらわれている。毎週2回お楽しみの日を設けられたり、外食や弁当等で変化をつけ、食事が楽しみなものとなるよう、工夫されている。	利用者にその日の食事内容を分かりやすくするため、ボードにメニューを書かれるなど工夫されてはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時にパン食・米飯食の好みを聞き取りできるだけ好みに合わせた食事内容にしている。食事量や本人様に必要な水分摂取量を把握し、水分摂取量が少ない方には内容や方法を個人に合わせて工夫し、食事量が減っている方には好物の食べ物を用意したりその時々に合わせて対応している。また栄養士の資格をもった職員を中心に献立をたてている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方、声掛けをして自分でされる方もあり一人ひとりに合わせた対応をして、毎食後職員が確認を行っている。介助が必要な方には、出来ないところを手伝うようにしている。必要に応じて協力歯科医院による訪問治療をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら個々に合わせて声掛けとトイレ案内を行っている。ご自分でトイレへ行かれるご利用者様にはさりげなく見守りをしている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導されている。利尿剤を服用の利用者は全職員が時間ごとの声かけやトイレ誘導を行ない、トイレでの排泄や排泄自立に向け支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックで排便の把握をして主治医と連携をとりながら便秘予防に努めている。階段や廊下を利用して運動の機会を増やしている。気候の良い季節には出来る限り戸外に散歩に出て運動できるように促している。毎日朝食にバナナヨーグルトを提供したり、食物繊維の多い食材や種類を豊富にするなどしてバランスの良い食事の提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の中入浴を好まれる方、仲良しの人と二人での入浴なら可能な方、一人ひとりの希望に添って対応をするように努めている。体調の具合で入浴に気が向かない方には足浴や清拭で爽快感を味わっていただいている。	入浴は本人の希望に沿った時間や回数で2日に1回は入浴できるよう、利用者全員に声掛けや誘導が行われている。拒否がある場合、時間や人を変えて声かけし、足浴や清拭等でも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ外の空気にふれたり太陽にあたり、日中の活動を多くして夜間にゆっくり休むことができるように促している。居室で休まれる際には、室温や湿度に注意を払っている。夜間帯はご利用者様の希望に合わせて照明の明るさも調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書ファイルを作成しており、職員全員が把握するように努めている。受診時にはご利用者様の状態を主治医に報告して状態に合わせて薬を調節、変更していただいている。服薬時は2名の職員とご本人様にも確認していただいた上で確実に飲みこまれるまでさり気なく見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみを数人のご利用者様で会話しながら一緒にされたり、お盆拭き、調理下準備、読書、歌、畑仕事、塗り絵、など一人ひとりの希望や得意分野に合わせた作業をしていただいている。作品が出来れば地域や法人内の作品展に出品して、作品展当日には見に行き楽しみの一つになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と定期的に外出される方もある。また天候や気温、体調に合わせてご本人様の希望を聴いて散歩に行ったり、地元の道の駅に野菜を買いに行く支援をしている。希望により墓参り、帰宅、必要があれば買い物外出など可能な限り早い対応を心がけている。体調により遠出が難しいご利用者様には近い場所でも気分転換になる場所を選び出かけている。	年間計画に沿って、花見や紅葉狩り、近隣名所にドライブに出かける他、地域の施設の催しに出かけられている。天気の良い日は近隣の散歩、敷地内での散歩、買い物や墓参りの支援もされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に合わせて金銭の管理が出来る方は所持されている。管理が難しい方はホームの金庫で預かり買い物の際にご本人様に渡して品選びから支払いまで見守りさせていただき買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいております、希望に応じ電話をかける支援をしている。お便りや届け物があった際は、電話や手紙でのお礼の手伝いをしている。届いたお便りを一緒に整理したり、返事を書くお手伝いや送付の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	29年度は、ご利用者様の希望により廊下の照明を明るくする工事を行い不安なく移動できるようにした。廊下・階段には季節感のある装飾や花を飾ったり、ご利用者様の作品や写真を飾り温かい雰囲気作りをしている。居室の場所がわかりにくいご利用者様には、目印になる物を掲げるなどの工夫をしている。	共有の空間は、切り絵や書道等の利用者の作った作品が飾られており、テーブル・ソファ等では利用者それぞれが趣味や歓談を楽しまれている。加湿器・加湿計を設置し、空調管理がされており、居心地よく過ごせるよう努められている。	ヒートショックの視点から、一般居室に比べ、トイレ、浴室の室温が低いと思われました。暖房等の環境整備をされるよう期待いたします。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、テーブル席とソファの場所を設けており、自由に利用できるようにしている。ご家族様や仲の良いご利用者様と自由にくつろいだり、一人でもゆっくり過ごすことができるスペース作りなどの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からご家族様に協力していただき、ご利用者様が気兼ねなくゆっくり過ごせるように馴染みの物を持ち込んでいただくことで、使いやすく居心地の良い場所になるように配慮している。入居後でも必要があれば、ご家族様にお願ひして写真やお気に入りの服等を持参していただくこともある。	居室にはタンスや寝具等、利用者の使い慣れた物が持ち込まれている。テレビや家族の写真アルバム等を置かれ、居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路やトイレ、階段の手すりを活用して自立歩行、移動の支援をしている。車椅子や歩行器が使用できるようにバリアフリーになっている。入浴の際は自立度に合った入浴チェアー、踏み台を選んで使用していただいている。		